学会員（教員）研究動向〔2004.４～2005.３〕

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
赤井　正二	著書(共著)	『メディア社会の歩き方』(「序章「見えない壁」の向こう側」，世界思想社)	2004.５
秋葉　　武	論文(単著)	「公共組織（NPO・行政組織）におけるインターンシップ」(『インターンシップ研究年報』，第７号，日本インターンシップ学会）1-6頁	2004.５
	論文(単著)	「新たな生協モデルの模索―エルコープの組合員活動およびNPO支援を事例として」(中村陽一『21世紀型生協論―生協インフラの社会的活用とその未来』所収，21世紀コープ研究センター編，日本評論社）81-100頁	2004.６
	その他（雑誌記事）	「勃興する日本のNPO大学院」(『NPOジャーナル』Vol.7，関西国際交流団体協議会)3-4頁	2004.10
	その他（雑誌記事）	「ソーシャル・インクルージョンとNPO」(『同上』Vol.8）18-19頁	2005.１
	学会発表	「公共組織（NPO・行政機関）におけるインターンシップ」(日本インターンシップ学会第５回全国大会個別報告，於：名古屋大学)	2004.６
	学会発表	「地方自治体とNPO―事業委託をめぐって―」(日本経営診断学会第37回全国大会個別報告，於：神奈川大学)	2004.10
荒木　穂積	著書(共著)	『対人関係に難しさのある子どもの発達の可能性と教育プログラム開発の試み』(学術フロンティア推進事業プロジェクト『対人援助のための「人間環境デザイン」に関する総合研究』シリーズ12号，立命館大学人間科学研究所）全199頁	2005.３
	論文(共著)	「高機能自閉症・アスペルガー障害児の発達と教育的対応―ふり遊びの分析から―」(『障害者問題研究』，第32巻，第２号，全国障害者問題研究会）43-50頁	2004.８
	論文(単著)	「障害児の発達という現実に立ち向かう心理学―発達保障と心理学―」(『現代のエスプリ』(特集「現実に立ち向かう心理学」(山本登志哉・伊藤哲司編)，449号，至文堂）100-110頁	2004.12
	論文(単著)	Mot so hieu biet ve ly thuyet tam ly hoc phat trien o Nhat Ban “Thuyet cac cap do va cac giai doan trong cac thao tac nghich dao trong phat trine nguoi” (in Vietnamese) (“Ung dung tam ly hoc tai Nhat Ban”(Ed., Vu Dung, Phan Thi Mai Huong, Ito Tetsuji and Yamamoto Toshiya), Nha Xuat Ban Tu Dien Bach Khoa; Ha Noi)	2005
	論文(単著)	「第３条　教育の機会均等　教育上差別されない」(『みんなで語ろう　教育基本法』所収，つむぎ出版)	2005.３
	論文(単著)	「ESCAP『障害者の権利条約』に関する地域ワークショップ」および「『びわこミレニアム・フレームワーク』に関する地域ワークショップ」に参加して」(障害者教育科学，第50号，科学的障害者教育研究会)	2005.３
	学会発表（共同）	『高機能自閉症・アスペルガー障害児の象徴機能の発達と教育的対応―ふり遊びの分析から―』(日本発達障害学会第39回大会（愛媛大学))	2004.７

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
有賀　郁敏	著書(共著)	Aruga, Ikutoshi, Eine kritsche Betrachtung über die Öffentlichkeit des, Sports in Japan, - in : S. Tazuke, Y. Okade, R. Naul (Hrsg.), Globalisierung des Sports: Zur Rolle der japanischen und deutschen Sportwissenschaft, Tadas Boohs, Kyoto, S.131-147.	2004. 6
	翻訳書(共訳)	オモー・グルーペ『スポーツと人間　文化的・教育的・倫理的側面』(Ommo Grupe, Vom Sinn des Sports. Kulturelle, pädagogische und ethische Aspekte, Verlag Karl Hofmann, Schorndorf 2000., 永島惇正氏他と共訳，世界思想社）全275頁	2004.11
	そ　の　他	「スポーツクラブの源流」(『京都新聞』2004年９月22日付朝刊)	2004. 9
池内　靖子	著書(共編著)	『労働のジェンダー化―ゆらぐ労働とアイデンティティ』(姫岡・中川・岡野・池内，平凡社)	2004. 3
	論文(単著)	「境界に立つということ　テレサ・ハッキョン・チャの『ディクテ』を読む」(『現代思想』2004年６月号，青土社）204-219頁	2004. 6
	論文(単著)	「テクスト『ディクテ』の舞台化―韓国の劇団ミュトスの公演とシンポジウムから」(責任編集太田省吾，鴻英良『舞台芸術06』，京都造形芸術大学舞台芸術研究センター，月曜社）204-212頁	2004. 7
伊藤　武夫	論文(単著)	「活字が世界を変えた」(柳沢伸司他編著『メディア社会の歩き方』，世界思想社）19-36頁	2004. 5
乾　　亨	論文(単著)	立命館大学現代社会研究会編「まちづくり読本：機嫌よう暮らせるまちをつくろやないか―京都からの発信―」(『21世紀の日本を見つめる』第10章，晃洋書房）175-186頁	2004.10
文　　楚雄	研究ノート（単著）	「中国のことばと文化・社会」(四)（『立命館産業社会論集』40巻３号）135-143頁	2004.12
	研究ノート（単著）	「中国のことばと文化・社会」(五)（『同上』40巻４号）159-168頁	2005. 3
	学会発表(国外,単独)	「中華料理名の構造の特徴」(中国語彙学学会第５回全国大会並びに第１回国際学術会議，中国・武漢大学)	2004. 4
遠藤　保子	論文(単著)	「舞踊と文化」(寒川恒夫編『教養としてのスポーツ人類学』，大修館書店）75-82頁	2004. 7
	論文(単著)	「アフリカの舞踊人類学の研究動向」(『体育学研究』50巻２号，日本体育学会学会誌）163-174頁	2005. 3
	講演(国外)	日本体育学会国際交流プロジェクト助成講演「舞踊とテクノロジー」(於：クラリオンミュージックセンター（サンフランシスコ))	2004. 7
	そ　の　他(講演報告)	Dance from Japan and Kenya - Utilizing the Technology of Motion Capture,	2005. 1
	学会報告	「国際交流に関する情報・プロジェクト報告」(『体育学研究』50巻１号，日本体育学会）159頁	
	そ　の　他(ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ)	第５回舞踊学会例会（於：東洋英和女学院大学大学院）	2005. 3
	その他(座長)	日本スポーツ人類学会第６回大会（於：UNITY 神戸研究学園都市大学交流センター）	2005. 3
	その他(座長)	第56回舞踊学会大会，於沖縄県立芸術大学	2004.12
	その他(単著)	京都芸術センター「ダンス―多彩な身体表現の世界」(『京都芸術センター開設５周年記念誌』) ８頁	2005. 3

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
岡田　まり	論文(単著)	「評価と関連するソーシャルワークにおける調査とは何か」((社)日本社会福祉士会・(社)日本医療社会福祉事業協会編『保健医療ソーシャルワーク実践３』，中央法規）2-7頁	2004.6
	論文(単著)	「ソーシャルワークにおける質的評価」((社)日本社会福祉士会・(社)日本医療社会福祉事業協会編『保健医療ソーシャルワーク実践３』，中央法規）33-44頁	2004.6
	論文(単著)	「ソーシャルワークの基本的な技能」((社)日本社会福祉士会編『新社会福祉援助の共通基盤　上』，中央法規）264-273頁	2004.9
	論文(単著)	「居宅ケアプランを実行する」（藤林慶子・北島英治編『居宅ケアプラン』，有斐閣）43-54頁	2004.12
	学会発表（共同）	「精神障害者の地域生活とその課題―当事者の視点から―」（日本社会福祉学会第52回全国大会，東京）	2004.10
	学会発表（共同）	「精神障害者の地域生活の課題と可能性」（第63回日本公衆衛生学会総会，島根）	2004.10
	学会発表（共同）	「精神障害者の地域生活支援の課題」（日本精神障害者リハビリテーション学会第12回学会，前橋）	2004.11
小川　栄二	論文(単著)	「生活後退現象としての食生活の問題点」（『虚弱高齢者のための介護予防食テキストブック』，地域保健研究会「介護予防食」現任テキスト研究班，東京法規出版）46-50頁	2004.11
	論文(単著)	「見直しの誤った前提―『軽度』高齢者観」（『婦人通信』561号，日本婦人団体連合会）24-26頁	2005.3
	調査報告（共著）	『ホームヘルパーに関するアンケート調査』（中央社会保障推進協議会，全国労働組合総連合）2-59頁	2004.9
川口　晋一	著書(共著)	『メディア社会の歩き方–その歴史と仕組み』（第７章「テレビとコマーシャリズム」，世界思想社）141-161頁	2004.5
小泉　秀昭	論文(単著)	「フランスサパン法の検討と日本での適応性」（『日経広告研究所報』214号，日経広告研究所）27-33頁	2004.4
	論文(単著)	「広告と流通」（宮澤永光・武井寿編著『流通新論』，第８章，八千代出版）143-164頁	2004.4
	論文(単著)	「メディアプランニングの視点から考えるアカウントプランニング」（小林保彦編著『アカウントプランニング思考』，日経広告研究所）171-187頁	2004.5
	論文(単著)	「広告メディア戦略立案に関する問題点と今後の方向性」（『商学研究』45巻１・２号，愛知学院大学論叢）123-136頁	2004.9
斎藤　真緒	学会発表（ゲストスピーカー）	「ボランティア相談場面における臨床研究の可能性―新しい分析視角の構築に向けて」（日本ボランティア学会2004年度大会，松本大学）	2004.6
	講演（ゲストスピーカー）	“The Change of “modern family” and Parenthood ― The rise of Parenting Education” in the UK（学術フロンティア事業「文化としてのリプロダクション研究会」国際シンポジウム（大雪青年の家）	2004.8
	学会発表（ゲストスピーカー）	「「近代家族」の変容と「親性」―」Parenting　Education の台頭を中心に」（第14回日本家族社会学会，日本大学）	2004.9
坂田　謙司	著書(共著)	「メディアの生涯―ローカルな音声を担う人々の物語」（阿部潔・難波功士編『メディア文化を読み解く技法　カルチュラル・スタディーズ・ジャパン』，世界思想社）170-194頁	2004.6

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
坂田　謙司	著書（単著）	『「声」の有線メディア史―共同聴取から有線放送電話を巡る〈メディアの生涯〉』（世界思想社）全316頁	2005. 3
坂本　利子	論文（単著）	Writing Culture: The Dynamics and Ambiguity of Ethnographic Production（『立命館産業社会論集』，40巻４号）1-17頁	2005. 3
	翻訳（単訳）	シャミン・ミーア「過去からのスナップ写真：新しい未来を築くために，過去の痛みを認めること」（『グローバル・ダイアログ：怒り，痛み，癒し―暴力と語りに関する地域間研究プロジェクト研究成果報告書』，大阪外国語大学グローバル・ダイアログ研究会）90-99頁	2005. 3
崎山　治男	著書（単著）	『「心の時代」と自己―感情社会学の視座』（勁草書房）全284頁	2005. 1
	論文（単著）	「アノミーとアイデンティティ」（精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂第３版：精神保健福祉士養成セミナー：社会学』，へるす出版）47-54頁	2005. 2
櫻谷真理子	論文（単著）	「子育てのネットワークを広げる」（『児童心理』No.805，金子書房）69-73頁	2004. 5
	論文（単著）	「乳幼児期の子育て支援のニーズと実際」（竹中哲夫・垣内国光・増山均編『新・子どもの世界と福祉』，ミネルヴァ書房）105-114頁	2004. 6
	論文（単著）	「子どもの虐待と家族援助」（『人権と部落問題』No.727，部落問題研究所）15-22頁	2005. 2
	論文（単著）	「今日の子育て不安・子育て支援を考える」（『立命館人間科学研究』第７号）	2004. 6
	論文（単著）	「子育ての実態と親のニーズについて」（『同上』第８号）69-79 頁	2005. 3
	研究報告書	『現代家族の育児困難・育児不安と子育て支援に関する研究』（平成14年度～平成15年度科学研究補助金（基盤研究（C）（２）研究成果報告書）	2005. 3
	学会報告	「今日の育児不安・育児困難と子育て支援の課題（その１）」（日本保育学会第57大会発表論文集）774-775頁	2004. 5
	学会報告	「子どもを虐待する家族への援助」（『日本科学者会議第15総合学術研究集会』）230-233頁	2004.11
	その他	「子育て不安・危機の現状と家族支援の実際」（全国保育問題研究協議会編集委員会編『保育問題研究』210号，新読書社）101-105頁	2004.12
佐藤　春吉	論文（単著）	「ハンナ・アーレントはなぜ見直されているのか―その魅力と問題点」（唯物論研究協会編『唯物論研究年誌第９号　親密圏のゆくえ』，青木書店）230-252頁	2004.10
篠田　武司	論文（単著）	「『分極化する社会』と新自由主義」（立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』，晃洋書房）38-54頁	2004. 4
	論文（単著）	「エレスンド地域（デンマーク―，スウェーデン）における開発とガバナンス」（『進化経済学論集・第９集』，進化経済学会）403-417頁	2005. 3
	シンポジウム（ゲストスピーカー）	「分極する社会を超えて―社会統合の危機と社会関係資本」（産業社会学部40周年記念国際学術シンポシウム）	2004.11
	シンポジウム（ゲストスピーカー）	「Polarizing Society and Quality of Life」(Analysis of the Quality of Life and Happiness: Dutch and Japan, Symposium by Netherlands Institute for War Documentations in Amsterdam)	2005. 2
	学会発表（ゲストスピーカー）	「エレスンド地域における開発とガバナンス」（進化経済学会・第９回大会）	2005. 3

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
芝田　英昭	翻訳書(監訳)	B. Jonathan 他『ニュージーランド福祉国家の再設計』（法律文化社）全394頁	2004.12
	論文(単著)	「社会保険の社会保障における位置づけと，社会保障運動の課題」（『月刊保団連』第825号，全国保険医団体連絡会）22-27頁	2004. 6
	論文(単著)	規制緩和大国・市場国家ニュージーランドの経験から日本を考える（上）（『月刊学習の友』第616号，労働者教育協会）61-67頁	2004.12
	論文(単著)	「規制緩和大国・市場国家ニュージーランドの経験から日本を考える（下）」（『同上』第617号）82-89頁	2005. 1
	調査報告書（共著）	『京都におけるホームレスの実態（報告書）』（立命館大学芝田ゼミナール）全86頁	2005. 3
鈴木みどり	著書(単編著)	『新版 Study Guide メディア・リテラシー［入門編］』（リベルタ出版）全142頁	2004.12
	著書(共著)	『21世紀の倫理』（笠松幸一・和田和行編，八千代出版）全264頁	2004. 5
	著書(共著)	『メディア社会の歩き方』（世界思想社）	2004. 5
	論文(共著)	“Media Literacy Initiatives in Citizens’ Right to Communication - the Case of Japan”, *Promote or Protect: Perspectives on Media Literacy and Media Education*, The International Clearinghouse on Children, Youth and Media, NORDICOM, Götebörg University, Sweden	2004.10
	シンポジウム（国内）	Media Literacy and the Global Media Monitoring Project (GMMP)（国際シンポジウム　アジア・太平洋フォーラム「世界がメディアを見つめる日」（Asia-Pacific Forum on Active Audiences)）	2004. 6
須藤　泰秀	著書(単著)	『人間化の現象学：類人猿の生命活動から人間の社会生活へ』（鶏鳴出版）全251頁	2004. 4
高垣忠一郎	著書(単著)	『生きることと自己肯定感』（新日本出版社）全220頁	2004. 7
	論文(単著)	「学校現場における思春期支援のためのコンサルテーションのあり方とそ意義」（『立命館人間科学研究』第 8 号，立命館大学人間科学研究所）91-100頁	2005. 3
高木　正朗	著書(単著)	『前近代の人口調査―仙台藩「人数改帳の成立と展開」』（SDDMA working paper〔Ⅱ〕，立命館大学人文科学研究所SDDMA研究会）全317頁	2004. 9
	資料研究（単著）	「19世紀初頭・東北日本の‘Social Survey’と出産調査―一関藩の貧民・村備籾・出産調べと救助制度―（上）」（『立命館産業社会論集』40巻 1 号）179-195頁	2004. 6
	資料研究（単著）	「同―（下）」（『同上』，40巻 2 号）155-172頁	2004. 9
	論文(単著)	「都市と宗教―真宗本山への納骨習慣と無縁墓の研究」（『都市のユニバーサリズム・ナショナリズム・ローカリズム―都市の本質的なりたちに関する基盤的研究―』，2004年度文部科学省科学研究費・基盤研究（A）研究成果報告書，272～305頁，代表者：神戸大学・浅野慎一）	2005. 3
高橋　正人	著書(共著)	「地域生活と福祉情報」（『学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ11～対人援助学のひろがり～』，立命館大学人間科学研究所）33-52頁	2005. 3
竹濱　朝美	論文(単著)	立命館大学現代社会研究会編「環境配慮型マーケティングと環境ラベル」（『21世紀の日本の見つめる』第 9 章，晃洋書房）154-174頁	2004.10

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
辻　勝次	論文（単著）	「研究の目的，経過と方法」（平成12年度～14年度科学研究費補助金基盤研究 B，研究成果報告書『新しい職業能力と職業経歴の動向に関する研究』（研究代表辻 勝次（課題番号12410065），職業社会学研究会）1-28頁	2004. 4
	論文（単著）	「『モノ作り』職場の技能形成」（『同上』）72-116頁	2004. 4
	論文（単著）	「新しい動向」（『同上』）310-330頁	2004. 4
	論文（単著）	「若者の新しい働き方と職業選択」（立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』，晃洋書房）68-89頁	2004.10
	論文（単著）	「質的調査の進め方」（『同上』）217-233頁	2004.10
津田　正夫	著書（共著）	「ジャーナリズムとしての放送」，「世界にひろがる市民の放送」（『メディア社会の歩き方』，世界思想社）121-140頁，163-176頁	2004
	論文（単著）	「〈市民放送〉の成立と課題」（小野善邦編『放送を学ぶ人のために』，世界思想社）289-305頁	2005
	論文（単著）	「市民アクセスの地平～失われた表現とコミュニケーションの恢復を求めて～（上）」（『立命館産業社会学論集』40巻３号）1-19頁	2004
	その他（新聞記事）	連載コラム「放送時評」（『京都新聞』2004年４月27日，５月25日，６月22日，７月20日，８月17日，９月14日，10月19日，11月16日，12月14日，2005年１月11日，２月８日，３月８日，京都新聞社）	2004. 4 2005. 3
	その他（雑誌記事）	「新しい公共性を創る好機だ　NHK の険しい道」（『GALAC』2005年３月号，放送批評懇談会，角川書店）15頁	
	学会発表（共同）	「カナダにおけるコミュニティー放送の展開と課題」（日本マス・コミュニュケーション学会2004年度春季研究発表会，八戸大学）	2004. 6
	学会発表（単独）	「市民メディアはコミュニティを再生させるか」（地域社会学会2004年度第３回研究会，同志社大学）	2004.12
	講　演（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ）	「市民活動における情報発信とメディア活用の意味」（京都市メディア活用セミナー，京都市・NPO 法人京都コミュニティ放送・京都市市民活動総合センター）	2004.11
	シンポジウム（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ）	「NHK を市民の手に！」（自由ジャーナリストクラブ／市民メディアねっと／放送と女性ネットワーク in 関西シンポジウム，在日韓国キリスト教会館（大阪），朝日新聞記事収録（2005・２・21））	2005. 2
	シンポジウム（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ）	「どうする NHK　ジャーナリズムと権力」（日本ジャーナリスト会議シンポジウム，岩波セミナールーム，朝日新聞記事収録（2005・３・６））	2005. 3
	その他	「将来の NPO の新たな活動展開について」（調査報告書『将来の NPO の新たな活動展開について』，愛知県企画振興部企画課，特定非営利活動法人ボランタリー・ネイバーズ）	2005. 2
	その他	「学生提案型地域づくり協働支援事業」（報告書『学生提案型地域づくり協働支援事業』，愛知県企画振興部地域振興課，愛知県女性総合センターウィルあいち）	2005. 3
津止　正敏	著書（共編著）	『障害児の放課後白書―京都障害児放課後・休日実態調査報告書』（クリエイツかもがわ）全262頁	2004. 5
	論文（共著）	「障害児・家族の生活実態と地域生活支援―京都・障害児放課後休日実態調査から」（『障害者問題研究』32巻４号，全国障害者問題研究会）13-20頁	2005. 2
	研究ノート（単著）	「社会福祉協議会の戦略と地域福祉活動計画」（『立命館産業社会論集』40巻１号）131-143頁	2004. 6

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
津止　正敏	学会発表（単独）	「障害児の放課後・休日ケア」（日本特別ニーズ学会（SEN 学会）第10回記念研究大会　2004年10月 9 日（土）〜10日（日））	2004.10
出口　剛司	論文（単著）	「身体感覚とリアリティ」（船津衛，山田真茂留，浅川達人編著『21世紀の社会学』，放送大学教育振興会）101-117頁	2005. 3
	論文（単著）	「〈死〉の受容と〈生〉の技法」『同上』）181-201頁	2005. 3
	論文（単著）	「負の歴史記憶と想像力：グロッセ・ハンブルガー・シュトラッセと「記憶の場所」をめぐって」（『立命館産業社会論集』40巻 4 号，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）（ 2 ）（課題番号14201024）『地域博物館のグローバル連帯が創り出す歴史教育事業の可能性』（2002-2005年度）（研究代表，東自由里））35-50頁	2005. 3
	学会発表（単独）	「パルマコンとしてのニヒリズム：後期フロム『ネクロフィリア』概念の思想史的位相」（日本社会学史学会第44回大会　2004. 6 .26, 日本女子大学，日本学術振興会科学研究費補助金若手奨励研究（B）（課題番号15730257）『エーリッヒ・フロムにおける破壊性とナルチシズム研究の現代的意義―現代社会における破壊性への社会学的批判』（2003-2005年度）（研究代表，出口剛司））	2004. 6
仲井　邦佳	学会発表（単独）	「スペイン語の比例構文 Cuanto más…tanto más について」（日本ロマンス語学会第42回大会，東京音楽大学）	2004. 5
中井　美樹	論文（単著）	'Classification of Career-Lifestyle Patterns of Women', Daniel Baier and Klaus-Dieter Wernecke (eds.): Innovations in Classification, Data Science, and Information Systems. 363-370., Springer-Verlag, Heidelberg-Berlin	2004.11
	書評（単著）	「原純輔編著『流動化と社会格差』」（『理論と方法』36号，数理社会学会）266-268頁	2004.11
	学会報告（単独）	「個人差クラスターおよび個人差 MDS による女性の文化活動の構造」（日本行動計量学会第32回大会，青山学院大学）	2004. 9
	学会報告（単独）	「社会調査士資格にかかわるプログラムの展開と課題」（同上）	2004. 9
	学会報告（国外，単独）	'Cultural Aspects and Social Stratification of Women: Overlapping Clustering and Multidimensional Scaling', 29th Annual GfKl Conference, March 9-11, 2005, Otto-von-Guericke-University Magdeburg.	2005. 3
中川　順子	論文（単著）	立命館大学現代社会研究会編「現代と家族―変容するライフコースの交錯―」（『21世紀の日本を見つめる』第 6 章，晃洋書房）90-113頁	2004.10
長澤　克重	著書（共著）	『メディア社会の歩き方』（世界思想社）	2004. 5
仲間　裕子	論文（単著）	「ベルリン，ナショナル・ギャラリー―ナショナリズムとフリードリヒ受容―」（『立命館産業社会論集』40巻 2 号）3-23頁	2004. 9
中村　　正	論文（単著）	「DV―加害者をどうするのかという問題が問いかけること」（『現代のエスプリ』441号，至文堂）43-51頁	2004. 4
	論文（単著）	「ドメスティック・バイオレンス加害者対策はどんな課題を提起しているのか」（『家族心理学年報』第22号，日本家族心理学会編，金剛出版）96-111頁	2004. 6
	論文（単著）	「子ども虐待防止の焦点―虐待する親へのアプローチ」（『月報司法書士』第380号，日本司法書士連合会）9-15頁	2004. 8

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
中村　　正	調 査 報 告（単著）	「ドイツにおける DV 加害者対策の概要」（『配偶者からの暴力の加害者更生に関する調査研究』，内閣府男女共同参画局）81-114頁	2004. 4
	学 会 発 表（単独）	「コミュニティの協働による家庭内暴力への対応」（日本コミュニティ心理学会第７回大会，立命館大学）	2004. 6
	学 会 発 表（単独）	「社会病理学と臨床社会学のブリッジングをめぐって」（日本社会病理学会第19回大会，山口大学）	2004. 9
	学 会 発 表（単独）	「社会福祉第三者評価事業における NPO の役割」（日本 NPO 学会第７回年次大会，関西学院大学）	2005. 3
野田　正人	論文（単著）	「スクールカウンセラーは不登校を治せるか」（『別冊教職研修　教育改革の論争点』，教育開発研究所）126-127頁	2004. 8
	論文（単著）	「家庭裁判所との連携」（『心理臨床実践における連携のコツ』，星和書店）163-186頁	2004. 9
	論文（単著）	「臨床ノート　スクールカウンセラー活動の覚書（その１）」（『立命館大学心理・教育相談センター年報』，第３号，立命館大学心理・教育相談センター）44-47頁	2004. 3
	論文（単著）	「虐待防止に向け地域との連携をどう充実するか」（『教職研修』，388号，教育開発研究所）72-75頁	2004.12
	書評（単著）	「非行専任児童福祉司奮闘記（その２）を読んで」（『そだちと援助』第７号，「そだちと援助」発行グループ）47-51頁	2004. 5
	書評（単著）	「木村隆夫著『非行克服の援助実践』三学出版」（『更生保護』2004年６月号，法務所保護局編　日本更生保護協会）52頁	2004. 6
	その他（単著）	「児童福祉論事例問題解説」（『第16回社会福祉士国家試験解説集』，社団法人日本社会福祉士養成校協会編集）250-259頁	2004. 7
	その他（単著）	「子どもをまもる」（『あすぱる』，第10号，（社）甲賀郡人権センター）3-5頁	2004.11
	学 会 報 告（単独）	「児童自立支援施設に今期待するもの」（全国児童自立支援施設協議会，於：高松市）	2004. 6
	学 会 報 告（単独）	「社会的養護のあり方について」（全国養護問題研究会，京都市）	2004. 6
東　自由里	論文（単著）	「職業人のための歴史教育事業：ドイツ・ヴァンゼー会議記念館」（『季刊　戦争責任研究』第47号（春季号），戦争責任資料センター）58-67頁	2005. 3
	翻訳（単訳）	Defending the Peace Constitution in the Midst of the SDF Training Area by Tanaka Nobumasa, Japan Focus, Mark Selden, ed.	2005. 2
	学 会 発 表（国外，共同）	“The Spirit of War Remains Intact”, Metropolitan Catastrophes: Scenarios, Experiences and Commemorations in the Era of Total War（国際会議）, Center for Metropolitan History, Institute of Historical Research, School of Advanced Study, University of London	2004. 7
	学 会 発 表（国外，単独）	“Memorial Museums in Japan: From Capital Tokyo to Cold War Island, Okinawa”, 20th General Conference and 21st General Assembly of the International Council of Museums (ICOM/Unesco), International Committee of Memorial Museum, Seoul, Korea	2004.10
黄　　盛彬	論文（単著）	「グローバル化とメディア」（早川善治郎編著『概説・マスコミュニケーション論』，学文社）187-209頁	2004. 4

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
黄　盛彬	著書(共著)	『メディア社会の歩き方―その歴史と仕組み』（世界思想社）	2004.5
	論文(単著)	「日本の韓流熱風」（韓国語）（『創作と批評』，創作と批評社（韓国）） 369-374頁	2005.2
	学会発表（単独）	「国境を越えてゆく東北アジアの文化―ナショナリズムとの関わりを中心に」（国際シンポジウム「東北アジア地域協力への道―基礎条件と展望」第3セッション「東北アジアにおける地域意識」，於：中国北京・中国社会科学院日本研究所会議室（中国社会科学院日本研究所・立命館大学国際地域研究所共同開催））	2004.10.29
	学会発表（単独）	「1988年ソウルオリンピック，2002年W杯，そして記憶の政治学」（COE国際シンポジウム「危機にあるオリンピック：複数の経験・複数の政治」，於：筑波大学大塚校舎）	2004.12.5
	その他	「韓流ブームのむこうに何が見えますか」（豊中市立蛍池公民館グループリーダー研修）	2005.2.4
深井　純一	調査報告書	「観光から感交へ―自然を感じて人と交わる修学旅行をめざして」（深井研究室）	2005.3
	論文(単著)	「田中長野県知事の脱ダム論を検討する―日本の森林・水田・海岸をつなぐ河川の生態系を考えつつ―」（立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』，晃洋書房）	2004.10
深澤　敦	論文(単著)	「「国際労働基準」と日本の労働」（立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる―家族から地球まで』，晃洋書房）16-37頁	2004.10
宝月　誠	著書(単著)	『逸脱とコントロールの社会学』（有斐閣）全280頁	2004.5
	著書(共編著)	『逸脱研究入門―逸脱研究の理論と技法』（文化書房博文社）全338頁	2004.10
	著書(共編著)	『社会的コントロールの現在』（世界思想社）全482頁	2005.3
	論文(単著)	「食の社会的世界とコントロール」（『フォーラム現代社会学』第3号，関西社会学会）9-17頁	2004.5
	論文(単著)	「アメリカ社会学における逸脱理論の発展過程の研究」平成14年～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究C・2）研究成果報告書，全54頁	2005.3
Ian T. Hosack	論文(単著)	「The Effects of Anonymous Feedback on Japanese University Students' Attitudes towards Peer Review,（『立命館法学』別冊，ことばそのひろがり（3）- 山本岩夫教授退職記念論集，立命館大学法学会）297-322頁	
増田　幸子	著書(単著)	『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』（大阪大学出版会）224頁	2004.2
	著書(共著)	第3章「文化としての出版，消費としての出版」，第10章「「越境する」映画」（『メディア社会の歩き方』，世界思想社）55-74頁，197-209頁	2004.5
	その他(単著)	「映画で異文化を「知る」ことができるか」（『京都新聞』2004.10.27刊）	2004.10
	その他(単著)	「「仕事」としての日本人女性」（『労働のジェンダー化』，平凡社）309-313頁	2005.3
松田　亮三	著書(分担執筆)	「公衆衛生」（事典刊行委員会編　『社会保障・社会福祉大事典』所収，旬報社）286-290頁	2004.11
	論文(共著)	「利用者負担に関する在宅長期療養者の経験」，「定率負担導入後の状況に関する質的研究」（『日本医療経済学会会報』）24-68，1-19頁	2005.1
	論文(共著)	「国民医療研究所DRGプロジェクト　スウェーデン調査報告」（『月間国民医療』209号）2-24頁	2005.2

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
松田　亮三	論文(共著)	近藤克則，平井寛，吉井清子，末盛慶，松田亮三，馬場康彦，斎藤嘉孝，「健康の不平等」研究会「介護予防に向けた社会疫学的大規模調査調査目的と調査対象者・地域の特徴」（『公衆衛生』69巻１号，医学書院）69-72頁	2005. 1
	論文(共著)	吉井，近藤，平井，松田，斎藤，「健康の不平等」研究会「高齢者の心身健康の社会経済格差と地域格差の実態」（『同上』69巻２号）145-148頁	2005. 2
	論文(共著)	松田，平井，近藤，斎藤，「健康の不平等」研究会「高齢者の保健行動と転倒歴 社会経済的地位との相関」（『同上』69巻３号）231-235頁	2005. 3
	書評(単著)	「近藤克則『医療費抑制の時代』（医学書院）をこえて―イギリスの医療・福祉政策」（『経済』112号）98-99頁	2005. 1
	学会発表（単独）	「医療への住民参加―英国における新たな挑戦の検討（第１報）」（第30回保健医療社会学会，東京）	2004. 5
	学会発表（単独）	Structural Reform and Health Equity in Japan: A Policy Analysis, INTERNATIONAL SOCIETY FOR EQUITY IN HEALTH (ISEqH) THIRD INTERNATIONAL CONFERENCE, Durban, South Africa, Japan	2004. 6
	学会発表（単独）	「医療における公平　国々の現状分析に向けた展開」（第28回日本医療経済学会研究大会，京都）	2004. 9
	学会発表（単独）	「スウェーデン医療政策の展開：1990年代後半からの動向」（第42回日本病院管理学会，熊本）	2004.11. 6
	学会発表（単独）	「いかなる健康格差が不公平か―社会疫学の成果の政策化に向けて」（第15回日本疫学会学術総会，滋賀県）	2005. 1 .17
松葉　正文	論文(単著)	立命館大学現代社会研究会編「市民社会と企業社会の間」（『21世紀の日本を見つめる』第１章，晃洋書房）3-15頁	2004.10
	翻訳(単訳)	ユルゲンコッカ「市民社会と政治の役割」（『立命館産業社会論集』40巻１号）197-203頁	2004. 6
峰島　厚	著書(共著)	「障害者施設職員のための実践的・集団的ケアマネジメント」（障害者支援システム研究会編『個別支援計画をつくる―利用契約制度と障害者ケアマネジメント』かもがわ出版）65-92頁	2004. 4
	著書(共編著)	「子どもの権利保障と施設養護」「障害の重度・重複化，年令超追」「障害児者における支援費制度」（浅倉・峰島編著『新・子どもの福祉と施設養護』ミネルヴァ書房）1-25頁，118-126頁，237-244頁	2004. 6
	著書(共編著)	「子どもの生活づくりを援助する実践」他（『同上』）17-18頁，21-22頁，27-28頁，29-45頁	2004.10
	著書(単著)	『知的障害者入所更生施設の脱施設化方策に関する研究』（平成14-15年度科研費補助金研究成果報告書（自家製本）全166頁	2004.11
	論文(共著)	「緊急座談会・支援制度の介護保険統合（上），（下）」（全国障害者問題研究会『みんなのねがい』（No.441），（No.442），全障研出版部）60-63頁	2004. 5
	論文(単著)	「脱施設化方策の検討」（全国障害者問題研究会『障害者問題研究』32巻１号，全障研出版部）2-12頁	2004. 5
	論文(単著)	「厚生省グランドデザイン案」を考える（上），（下）」（全国障害者問題研究会『みんなのねがい』（No.450），（No.451））63-65頁，59-61頁	2005. 2
宮下　晋吉	論文(単著)	「通信テクノロジーの発展」（『メディア社会の歩き方』，世界思想社）211-231頁	2004. 5

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
門田幸太郎	論文（共著）	「対人認知における類似性と非類似性について」（立命館産業社会論集』40巻 3 号）21-36頁	2004.12
	書評（単著）	ロジャー・C. マンネル，ダグラス・A. クリーバー著，速水敏彦（監訳）『レジャーの社会心理学』（世界思想社，2004. 5『社会心理学研究』20巻 3 号）	2005. 3
	学会発表（国外，共同）	“The cultural difference of parents’ and teachers’ disciplinary attitudes”, The 28th International Congress of Psychology(Beijing),	2004. 9
	学会発表（国外，共同）	“Comparison between Similarity and Reciprocity on Friendship”, The 28th International Congress of Psychology (Beijing)	2004. 9
柳澤　伸司	著書（共著）	「新聞と民主的な社会」（『メディア社会の歩き方』，世界思想社）37-54頁	2004. 5
		「新聞と読者の視線」（『同上』）75-95頁	2004. 5
	論文（単著）	「NIE と大学生―『活字メディア分析』という授業から」（日本 NIE 研究会『新聞でこんな学力がつく』，東洋館出版社）156-161頁	2004. 5
	調査報告（単著）	「〈外国新聞の概況〉北欧」（日本新聞協会『日本新聞年鑑 ’04／ ’05年版』，電通）86-87頁	2004.11
	シンポジウム	シンポジウム「新聞研究」再考（日本マス・コミュニケーション学会2004年度春季研究発表会，八戸大学）	2004. 6
山口　　歩	論文（単著）	立命館大学現代社会研究会編「技術発展を測るものさい―寿命の問題を軸に―」（『21世紀の日本を見つめる』第11章，晃洋書房）188-206頁	2004.10
山下　高行	論文（単著）	「海外研究動向―グローバリゼーション研究とスポーツ・英国から」（『運動文化研究』Vol.22，学校体育研究同志会編）142-147頁	2004.12
	そ　の　他	「イラク戦争後のアテネ大会と英国スポーツ界ーバリー・ホウリハン教授に聞く」（『体育科教育』，大修館書店）46-47頁	2004. 8
山本　　隆	論文（単著）	「地域福祉と計画―ローカル・ガバナンスの視点から」（『立命館産業社会論集』40巻 1 号）27〜45頁	2004. 6
	論文（共著）	ローカルガバナンスと新たな公共性（上）（『社会科学73』，同志社大学人文科学研究所）59-79頁	2004. 9
吉田　信介	論文（共著）	「ネットワーク VOA リスニング教材における中期学習の効果」（『PC Conference 論文集』，CIEC（コンピュータ利用教育協議会））410-411頁	2004. 8
	論文（共著）	「掲示板を活用したオンライン英語クローズテストの開発と実践」（『日本教育工学会第20回全国大会講演論文集』，JSET（日本教育工学会））239-240頁	2004. 9
	研究ノート（単著）	「パプアニューギニアにおける言語教育」（『立命館産業社会論集』40巻 4 号）143-158頁	2005. 3
	シンポジウム（共同）	「日本人英語学習者の文理解プロセスの解明に向けて―ガーデンパス文の処理を中心に」（『第43回大学英語教育学会全国大会要綱』，JACET（大学英語教育学会））73-74頁	2004. 9
リム　ボン	論文（共著）	「米国ミネソタ州におけるモン族コミュニティの再編」（『立命館産業社会論集』40巻 2 号）113-134頁	2004. 9
	論文（共著）	「米国ミネソタ州におけるモン族コミュニティの経済発展」（『同上』40巻 3 号）37-56頁	2004.12
	論文（単著）	「被差別部落にみる「場所の力」：柳原銀行記念資料館特別展と崇仁まちづくり運動の展開」（『同上』40巻 4 号）19-34頁	2005.3

名　前	種　別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
和田　武	著書(編著)	『地球環境館』（小学館）	2004. 7
	論文(単著)	「再生可能エネルギー政策の現状と課題」（『環境と公害』Vol.43, No.1，日本環境会議）16-22頁	2004. 7
	論文(共著)	「『KES・環境マネージメントシステム・スタンダード』とその認証取得企業の研究」（『立命館産業社会論集』，第40巻，第２号）93-112頁	2004. 9
	論文(単著)	「地球環境破壊と社会」（立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』，晃洋書房）117-135頁	2004.10
	学会発表（共同）	「電力買取補償制度により促進されるドイツの再生可能エネルギー普及」（日本環境学会第30回研究発表会，中部大学）	2004. 6
	学会発表（共同）	「ドイツ・北フリースランドにおける市民参加による再生可能エネルギー普及」（同上）	2004. 6
	学会発表（共同）	「循環型社会形成に向けて～ KES・環境マネージメントシステム・スタンダードの実証的研究～」（同上）	2004. 6
	学会発表（共同）	「有機性資源を活用した地域循環型社会形成のための社会実験について」（同上）	2004. 6
	学会発表（単独）	「再生可能エネルギー普及の意義と課題」（日本学術会議第６部・自然保護研究連絡委員会）	2004. 9